

家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴	「家庭学習強化週間」と「家庭学習と授業の接続」
-------	-------------------------

南相馬市立原町第二小学校

【取組の概要】

家庭学習の進め方について、学校と家庭で目的、内容、方法の共有化を図っている。また、「家庭学習強化週間の設定」、「個に応じた家庭学習の工夫」、「家庭学習を授業に生かす取組」がなされている。

1 取組① 協力・連携体制を築いています

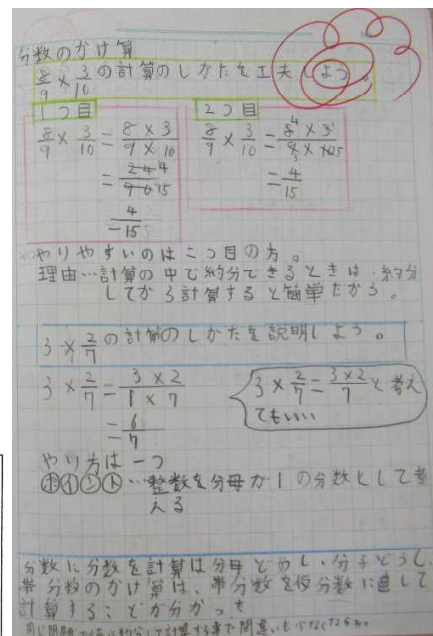
(1) 保護者への啓発

保護者会、学校評議員会等で「家庭学習スタンダード」を周知している。

また、学校独自で作成した「家庭学習の進め方（ひばりっこのチャレンジ）」を各家庭に配付し、学校と家庭が家庭学習のポイントを共有し、児童の自己マネジメント力の育成に取り組んでいる。

なお、家庭学習の充実に向けて、保護者と意見を交換する機会も検討している。

【家庭学習ノート】



【「ひばりっこのチャレンジ」の一部抜粋】

④ 途中の式や図、表は省略せずに書く。

学習する上で、答えが当たることだけでなく、「どのように考えたか」という点も重要になってきます。国語科では、メモや下書き、算数科では、途中の式や計算、筆算などです。これらは、思考の過程を表すものなので、ぜひ書きましよう。間違ったときに、その原因を探るためにも大事な材料になります。先生が、どのように考えて答えを出したかを知る参考にもなりますので、省略せず書き残しておくようにしましょう。

(2) 「家庭学習強化週間」の設定

月に一度「家庭学習強化週間」を実施し、児童に「目標」や「内容」を設定させ、取組への自己評価をさせている。

家庭学習の強化(学力向上)について

新年度が始まり、子どもたちも新しい環境での生活にも慣れてきたことと思います。保護者の皆様には、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、学校での学習効果を一層高め、さらに、家庭での学習習慣形成を図るため、今年度第1回目の「家庭学習チャレンジ週間」を実施します。進級し、子どもたちも新しい学習に意欲がわいてきていこうと思います。お子さんが、自分で立てた学習計画に添って、計画的に学習に取り組むことができるよう、ご家庭でも声をかけ励まして下さい。よろしくお願ひ致します。

○ 方 法

(1) 自分に合った学習時間や目標・内容を決める。

- ◇ 目標や内容の例
 - 今日の授業で学習したところのノートを振り返り、確認する。
 - 次の日に学習するところの教科書を精読したり、自分なりにまとめる。
 - 音読をする。
 - 漢字の書き取りや、計算練習をする。
 - 間違った問題をもう一度解く。
 - テレビなどを見ないで集中して行う。
 - ※ 始まりと終わりの時間を確認する。
- ◇ 目安の時間 低学年…30分以上 中学年…60分以上 高学年…1時間30分以上

(2) 学校で家庭学習の内容や目標を記入する。

(3) 自分に合った家庭学習を実施し、反省を書き、家族からのコメントをもらう。

○ その他

全校生(1年生は2学期から)で取り組み、実施期間以外も、継続してできるように努力する。

「家庭学習 チャレンジ週間」 (中・高学年用)

年 氏 名	目標の時間	1時間 30分
	目標とする内容やめあて	毎日毎日とてきまぬにやる

月/日 (曜日)	6/7 (木)	6/8 (金)	6/9 (土)	6/10 (日)	6/11 (月)	6/12 (火)	6/13 (水)
取り組んだ時間	時間 35分	時間 30分	時間 30分	時間 30分	時間 35分	時間 35分	時間 30分
取り組み時間のはんせいめあてのはんせい	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎

◎: 目標以上にがんばった ○: 目標どおり取り組めた ▲: やりすぎだった ×: 不足だった、忘れた

自己反省

目安の時間を守ることでできた日があったのでその時に自習をやればよかったなと思いました。自習 = 自主学習 = 自分で考え学習する がんばらなくていいようにめあてを決めたい。

お子さんの家庭学習の様子をお知らせ下さい。

自習を1ページも99と頑張っていました。

(3) 「学習の仕方」の配付

各学年に応じた「学習の仕方」を配付し、保護者にも家庭学習の環境づくりに向けた協力を仰ぐことで、学校、子ども、家庭が一体となって家庭学習の充実に向けた取組をしている。

1・2ねんせいの がくしゅうのしかた

※ 1年生は2学期後半から始める予定です。

もくひょう (30分)

- いかにかえったら、すでにはじめよう。
- なんじまでおわるという、めあてをきめよう。
- まいにちつづけてがくしゅうしよう。
- アンビをけして、きになるもの(まんが本やゲームき、おもちゃなど)をかたづけながら、はじめよう。
- おやのたべながらは、やしません。
- ただしいしい、ただしいえんぴつのもちかたでやります。

どんなことを どんなやりかたでやるの？

★ まずは、先生から出されたプリントや、おんどくなどをやる。

じしゅがくしゅうの ないよう	やりかたの れい
① じのれんしゅう (ひらがな、かたかな、かんじ)	・ ノートに、きょうかじやドリルなどをみながらよくみて、いかにかく。 ・ とめ、はね、ほらい、かきじゆんにだにきをつけてかく。
② けいさんれんしゅう	・ ドリルやきょうかじのものだいをかいてやる。 ・ こたえあわせをし、まちがいをかならずなおす。

かていがくしゅうのあとにすること

- がくしゅうしたことを、せんがおうちの人にきせよう。
- じかんわりをそろえて、れんらくちょうとおんどくカードにサインをかいてもらいましょう。
- えんぴつをけずり、けしごむやあかおえんぴつ(ペン)、じょうぎ、じじがそろっているかたしかめよう。

5・6年生の学習のしかた

目 標 (1時間 30分)

- 何時までに終わるというめあてを決め、効率よく進めよう。
- 毎日続けて学習しよう。
- 学びをけして、強くなるもの(まんが本やゲーム機など)をかたづけながら、始めよう。おやつを食べながらは、やしません。
- いろいろな教科の学習や、復習・予習に取り組みよう。

いろいろな内容を 例を参考にやってみよう!

★ まずは、先生から出されたプリントなどをやる。

自主学習の内容	やり方の例
① 漢字の練習、言葉の練習 意味調べ 新聞記事を使った学習	・ 家庭用や学校用漢字辞書などで練習する。 ・ 辞書から出てきた言葉、国語辞書を使って意味を調べる。 ・ 新聞記事を使った学習
② 計算練習、文章問題 図形のかき方	・ 計算ドリルや教科書の問題を解く。 ・ クエストやプリントなどで間違えた問題をもう一度学習する。 ・ 答えを出すだけでなく、考え方を言葉や図などで説明する。 ・ その日の授業のノートを見ながら、もう一度ノートにまとめたり、次の時間の学習をする。
③ 社会科や理科の復習や学習	・ 教科書を読み、大切なところを引いたり、ノートにまとめたがる。 ・ わからない言葉の意味を調べる。 ・ 興味を持ったことを、くわしく調べる。 ・ その日の授業のノートを見ながら、もう一度ノートにまとめたり、次の時間の学習をする。
④ 学習感想	・ 内容やかかった時間などについて振り返り、感想を書く。
⑤ その他	・ 自分で興味を持ったこと、知ったことなどを調べる。

家庭学習の後にすること

- 学習したことを、家の人に見てもらい、間違いを直しましょう。
- 時間をそろえて、学習用具がそろっているか確かめよう。

2 取組② 家庭学習を授業に生かす指導をしています

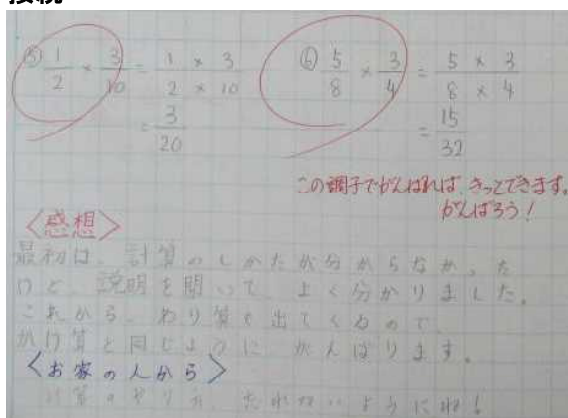
(1) 日課表

今年度より、個に応じた指導の充実を図るため、日課表の中に「ステップアップタイム」を設けている。水曜日と木曜日の朝の時間は、授業内容との関連のある家庭学習に取り組んだ例を紹介したり、課題となっている学習内容の反復練習の場としたりするなど、年間をとおして計画的に活用している。また、水曜日の5校時、6校時の後にも位置付け、授業に関わる補足的・発展的な内容に取り組むだけでなく、家庭学習の内容・方法についての指導も行っている。

(2) 個に応じた家庭学習指導と授業との接続

【家庭学習ノート】

高学年では、これまでの自主学習への取組の実態をもとに、教師が児童へ自主学習の内容について指導を行っている。算数科では、授業でできなかった内容にもう一度取り組んでみるような支援や、「授業中では思いつかなかった考えがあれば、それを書いてきてみたら?」といった声かけなどを行い、児童による新たな発見が生まれるような自主学習となるよう支援をしている。一方で、定着に課題が見られる場合は、復習を中心とした家庭学習となるよう支援をしている。



3 取組③ 内容・方法を指導しています

保護者が学校を訪れる機会を利用して自主学習ノートの展覧会を開催している。各学年の児童のよい取組を紹介することで、児童相互だけでなく保護者にもよりよい家庭学習のイメージをもつ機会となっている。なお、児童の素晴らしいノートを表彰し、自主学習への意欲付けも行っている。



家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴	「学習の手引き」と「ICT」を活用した家庭学習の質の向上
-------	------------------------------

新地町立尚英中学校

【取組の概要】

「家庭学習スタンダード」を基に、各教科で作成していた学習の仕方を見直し、新たに「学習の手引き」を作成して、家庭学習の質の向上を図るとともに、ICTを活用し家庭学習と授業をつなぐ実践を行っている。

1 取組① 共通理解を図り指導しています

○ 「学習の手引き」を活用した家庭学習の質の向上

昨年度までは、学習の仕方について各教科に任せていたところがあったが、「家庭学習スタンダード」を基に、それらを見直し「学習の手引き」を作成した。年度当初に全校生に配付し、学校全体で共通理解を図り、指導を行っている。目的をしっかりとって学習に取り組んだり、見通しをもち、最後まで根気強く学習したり、何がわかって、何がわからないかをはっきりさせたりするなど、生徒自身がR-PDCAサイクルを実施できるように、継続的に指導を行っている。今後、より活用しやすい「学習の手引き」になるように、今年度1年間の取組を振り返り、生徒の声も生かしながら、改善をしていく予定である。

1. 学習の手引きについて

みなさんが将来役立つ学力を身につけるには、良い学習の習慣を身につける必要があります。できなかったことやわからなかったことが、できるようになり、そして、わかるようになることこそが「学習」することの意味なのです。自分にあった良い学習を身につけるためにはどうしたらよいでしょうか。それには、次のことが大切になってきます。

- (1) 学習に対するしっかりとした目的を持つ
- (2) 何がわかって、何がわからないかをはっきりさせる
- (3) 見通しを持ち、最後まで根気強く学習をする
- (4) 学習のしかたを身につけ、学習の場において活用できるようにする



特に(3)(4)は、良い学習の仕方を一人ひとり身につけるために大事な基礎となることです。これらのことを、「学習法訓練」といいます。つまり、学習法訓練を通して自然に良い学習の習慣が身に付くというわけです。

以上のような考えから、学校ではみなさんに学習の仕方を身につけてもらうためにこの学習の手引きをつくりました。教科ごとにどのようにして学習を進めていったらよいか、どのような心構えで授業を受けたらよいか、みなさんの立場に立って詳しくかかれてあります。したがって、授業を受けるときはもちろん、学習するときはいつでも、この手引きをかたわらに置いて十分に活用してください。そして、授業の能率を高め、確かな学力のもととなる良い学習の仕方を一日も早く身につけられるように頑張ってください。

数学科

1. はじめに



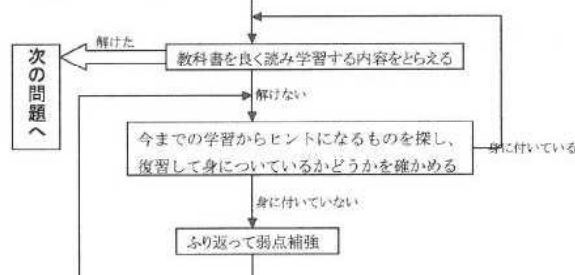
みなさんがこれから学び、働き、生きていく社会において、豊かさと活力を支えるのは高度の科学技術と情報化です。特に我が国のような資源の少ない国にとって、科学技術は大切な力です。もちろん、これらの根底で数学の力が役立っているのはいうまでもありません。そしてこれらの適切な利用には数学の素養が必要です。数学をよく学ぶことによって、皆さんの未来は広がると思います。



2. 学習の仕方

(1) 予習(授業に参加するための準備運動)

- ・今の段階でどこが部分がわかり、わからないのかを明らかにする。



国語科

1. はじめに

国語は私たちの生活に欠かせない言語です。言葉を通して物事を考えたり、理解したりします。また、言葉を読み取り読んだりすることによって考えや気持ちを伝えあうことができます。

正確に内容を理解し、伝えあう力を高め、言葉の持つ美しさや微妙なニュアンスの違いを敏感に感じ取り、適切に表現する力を身につけていきましょう。

2. 国語学習の約束

《授業で用意するもの》

- ① 教科書
- ② 国語辞典
- ③ ノート(大学ノート)
- ④ ワークブック
- ⑤ 漢字フワフ
- ⑥ ファイル

授業のはじめに自分の机の上に置く

《学習のしかた》

- ① 仲間や、先生の話をよく聞き、よく考えて、積極的に自分の考えを発表する。
- ② 聞かされたらはっきりと返事をする。
- ③ ノートを工夫する。
- ④ 一色分け、貼付符などをして世界一の参考書に!
- ⑤ 配布された印刷物の整理をする(ノートに貼るか、ファイルに貼る)。
- ⑥ 一度テストに出た問題は必ず、理解しておく。
- ⑦ 毎日、新聞を読む。
- ⑧ 考えて読む習慣を身につけよう

2 取組② 授業と家庭学習をつなげています

(1) ICTを活用した家庭学習の実践


町内の学校全体でICTを活用した学びを展開している。授業での活用だけでなく、家庭学習においてもICTを活用した実践を行っている。家庭にパソコンやインターネット環境のない生徒には、「パソコン持帰り」として、パソコンやモバイル Wi-Fi ルータの貸し出しも行って、誰でも気軽にICTを活用した家庭学習ができる環境が整っている。様々なソフトを使用して、生徒が自主的に家庭学習に取り組んだり、生徒が授業の動画や板書の写真等を持ち帰り、家庭で復習する試みも始めたりしている。それにより、生徒の家庭での学習状況を学校のパソコンを利用して担任や教科担当が把握でき、個に応じた助言や個別支援を行うことができる。

パソコン持帰り ログイン方法とルールについて

絶対に守ってほしい事


- ① パソコンは学校の物です。丁寧に扱ってください
- ② 少しでもおかしいなと感じたら、何もせずに学校に持って来て、担任の先生かICT支援員に必ず報告してください
- ③ パソコン、モバイルWi-Fi ルータを持ち帰ります。


返却する時持ち帰った物は忘れず戻して下さい。



自宅のパソコン等で学習に取り組む方法

- ① ブラウザのアドレスバーに URL 「http://」を入力するか、カードのQRコードを読み込む
- ② 学校コードを求められたら「」と入力し、ユーザーID、パスワードを入力する





教科書カード
尚英太郎
ID→ パス→
学校コード→
URL→http://

③ eライブラリ、スクールタクト等学習に取り組む

(2) 家庭学習と授業をつなぐ実践

教員は、それぞれの生徒の家庭での学習状況（いつ、何時間学習したか等）や定着状況等について学校のパソコンで確認することができる。生徒の実態を把握し、理解が不十分である場合には、補充学習を行うなど、家庭学習と授業をつなぐ取組を行っている。

<家庭での学習状況と定着状況>

学習日	学年	教科	単元名	教材名	レベル	初回	最終	リトライ	時間(分)	状態
2018/11/13	中学1年	英語	Unit 7	「どちら[どれ]をへしますか。」	挑戦	100	100	0	5	
2018/11/13	中学1年	英語	Unit 7	「へはどれですか。」	挑戦	100	100	0	2	
2018/11/13	中学1年	数学	方程式 1次方程式の利用	方程式の利用 (基本)	標準	100	100	0	3	
2018/11/06	中学1年	理科	植物の世界 植物の分類	シダ植物	標準	50	100	1	6	
2018/11/06	中学1年	理科	植物の世界 植物の分類	種子植物の分類 (2)	標準	100	100	0	2	
2018/11/06	中学1年	理科	植物の世界 植物の分類	種子植物の分類 (1)	基本	100	100	0	1	
2018/11/06	中学1年	理科	植物の世界 花のつくりはたらき	花のつくりはたらき (2)	標準	67	100	1	2	
2018/11/06	中学1年	理科	植物の世界 花のつくりはたらき	花のつくりはたらき (1)	基本	80	100	1	2	
2018/10/31	中学1年	数学	文字と式 文字式の計算	1次式と数の乗法 (1)	挑戦	100	100	0	2	
2018/10/31	中学1年	数学	文字と式 文字式の計算	1次式の加法	挑戦	80	100	1	3	
2018/10/31	中学1年	数学	文字と式 文字式の計算	1次式	挑戦	40	100	1	2	もう一度
2018/10/31	中学1年	数学	文字と式 文字式の計算	項と係数	挑戦	100	100	0	4	
2018/09/18	中学1年	数学	文字と式 文字を使った式	代入と式の値 (1)	挑戦	100	100	0	2	

<ICTを活用した家庭学習の様子>



<eライブラリを活用した補充学習の様子>



家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴	「家庭学習の手引き」の見直しと「学習・生活習慣セルフチェック」の活用
-------	------------------------------------

いわき市立高坂小学校

【取組の概要】

子どもたちの家庭学習への取組から、学校の「学習の手引き」を見直し、生活や学習の習慣を自ら振り返りながら、より良い生活に改善していこうとする自己マネジメント力の育成に努めている。

1 取組① 共通理解を図り指導します

○ 児童の実態に応じた「家庭学習の手引き」の作成

学校全体で確認した生活のきまりや「学習の手引き」の改善を図っている。特に、高学年ブロックでは、中学校への接続を視野に入れ、「漢字・計算ドリル学習の進め方」を配布し、基本的な学習の仕方の徹底を図ってきた。また、家庭に対しては、お便りだけではなく、授業参観等において、学年の取組について担当者が説明し、協力を依頼している。さらに、「学習の進め方」による学習方法の徹底だけでなく、学習時間や学習内容について予定を立て、子ども自らが生活を改善できるように「学習・生活習慣セルフチェック表」を作成している。

内郷方部小中学生・生活のきまり

学年	生活習慣	学習時間
小学生	1年、2年：30分 3年、4年：60分 5年、6年：90分	学年+1時間
中学生	1年：2時間 2年：3時間 3年：4時間	

家庭学習について

5年生も折り返しを過ぎました。毎日の宿題も、4月に比べるとずいぶん短い時間でできるようになってきました。また、一人一人の得意なこと、不得意なことの差も大きくなってきました。そこで、家庭学習の進め方を少しレベルアップし、自分に合った勉強ができるようにしたいと思います。

◇学習時間：内郷方部の目標は90分ですが、まずは**60分**。集中して取り組みましょう。もちろんそれ以上できる人はどんどんやりましょう。

◇学習内容：まずは学校の宿題。残った時間を利用して、自学に取り組みましょう。
(例) 宿題に4.0分かかるとしたら、自学を2.0分で、合計6.0分。

自学って・・・どんなことをやればいいのか？自由です。

○得意なことを伸ばす ○苦手を克服する ○興味のあることを追究する など

【例】漢字、計算ドリルの復習・市販の問題集・教科書の予習・テスト勉強
・言葉の意味調べ・新聞記事の切り抜き、感想・理科、社会の復習
・ココアとペプチコアのちがいを調べる・オリジナル恐竜図鑑を作る などなど・・・

※「楽にできるもの」ではなく、「今の自分に必要なもの」を選べるとよい。

「学習の進め方」に加えて「生活習慣」をより意識化させることによって、目標としていた「月曜日から金曜日までの5日間で300分以上」の学習時間をほとんどの児童が確保できるようになり、目標をさらに高くもって取り組む児童が増加した。

家庭学習の進め方 ～計算～

① 日付、時刻を書く (時刻、終り)
② ドリル番号、タイトルを書く
③ 問題を書く
④ 単算を書く
⑤ 答えを書く
⑥ ○印を打つ

家庭学習の進め方 ～漢字～

① 日付、時刻を書く (時刻、終り)
② ドリル番号を書く
③ 単算
④ 例文を3回
⑤ 熟語 覚え方は、
3回で集中して覚える!!

2 取組② 内容・方法を指導します

○ 予定確認表と学習・生活習慣セルフチェックの活用

家庭学習の習慣化のためには、子ども自らが翌週の生活スケジュールを立てることができるようになることが大切である。習い事など放課後の予定を記入させることで、「学習・生活習慣セルフチェック表」を作成させている。その際、就寝時刻・起床時刻を記録し、生活習慣についても振り返ることができるようにしている。また、生活習慣については、保護者が積極的に子どもと関わっている。午後9時から10時までの間にほとんどの子どもたちが就寝し、睡眠時間が十分に確保され、生活のリズムが身に付いてきている。

これらの取組を継続してきた結果、合計学習時間が増加しただけでなく、帰宅後の時間や週末の時間の使い方について子ども自身が考えるようになり、自己マネジメント力の育成につながっている。

【学習・生活習慣
セルフチェック表】

学習・生活習慣セルフチェック表		5年 組 番 名前()						
今週のめあて(自分の課題) 先週休んだ分のあけをき取りもどす。		5年生として1日60分以上(目標は90分) 1週間で300分以上(5日間)						
放課後の予定 (少額、事など)	21日(日)	22日(月)	23日(火)	24日(水)	25日(木)	26日(金)	27日(土)	計
		合唱		習字				
学習の計画 (宿題以外)	計4回	5	6	7	漢字3回	4		
就寝時刻	21:00	21:30	21:00	21:30	22:00	21:00	21:30	
起床時刻	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	6:00	
睡眠時間	9時間00分	8時間30分	9時間00分	8時間30分	8時間00分	9時間00分	8時間30分	
家庭学習の記録	国算	20分	25分	25分	20分	25分	20分	
	その他	計4回	計4回	計4回	計4回	計4回	計4回	
	時間	合計 90分	合計 100分	合計 85分	合計 60分	合計 35分	合計 25分	合計 30分
読書の記録	題名							
読書の種類	種類							
今週の反省	1週間を振り返って 「漢字の勉強が、 A・B・C 計4回どかあり進まず、漢字が一つも自学できなかったから 来週も同じめあてをたてたい。」							担任印

○保護者から
「1週間の放課後の予定を考えて、学習を進めていくということは、自分の生活を自分で考えていくことにつながって良い。」
「親も、宿題をどのくらいの時間で終わらせたのかが分かって良い。」

【児童の自学ノート例】

○保護者から
「最初のうちは、ドリル学習を丁寧にやると1時間では収まらなかった。月曜から金曜まで300分(1日1時間)では少ないかとも思ったが、子どもの家庭学習の姿を見ると、時計を目の前において、集中して学習する姿に感心した。」

直径(□)が2倍3倍...になると
えれにもな、て円周も2倍、
3倍...になるので円周は、直径
に比例しています。

2月4日(月)
ドリル 16:20~16:38
→集中して取り組む

トレーナー 1500
スカート 1200
ジャンパー 4000

① スカートのねだんは、トレーナーのねだんの□倍です。

$$1200 = 1500 \times \square$$

$$\square = 1200 \div 1500$$

$$\square = 0.8$$

答え 0.8倍

② ジャンパーは定価4000円の20%をぬぎしめてく水ます。代金は□円になります。

$$4000 \times 0.2 = 800$$

$$4000 - 800 = 3200$$

答え 3200円

③ みどりさんは、下の2まいの割引きけんを持っています。どちらの割引きけんを使うと、トレーナーが安く買えますか。

割引きけんA 30%引き	割引きけんB 300円引き
-----------------	------------------

A) $1500 \times 0.3 = 450$
 $1500 - 450 = 1050$

B) $1500 - 300 = 1200$
答え 割引きけんA

家庭学習の充実に向けた実践を行っている学校の取組

取組の特徴	キャリア教育を基盤とした学校経営に基づく家庭学習の取組
-------	-----------------------------

いわき市立中央台北中学校

【取組の概要】

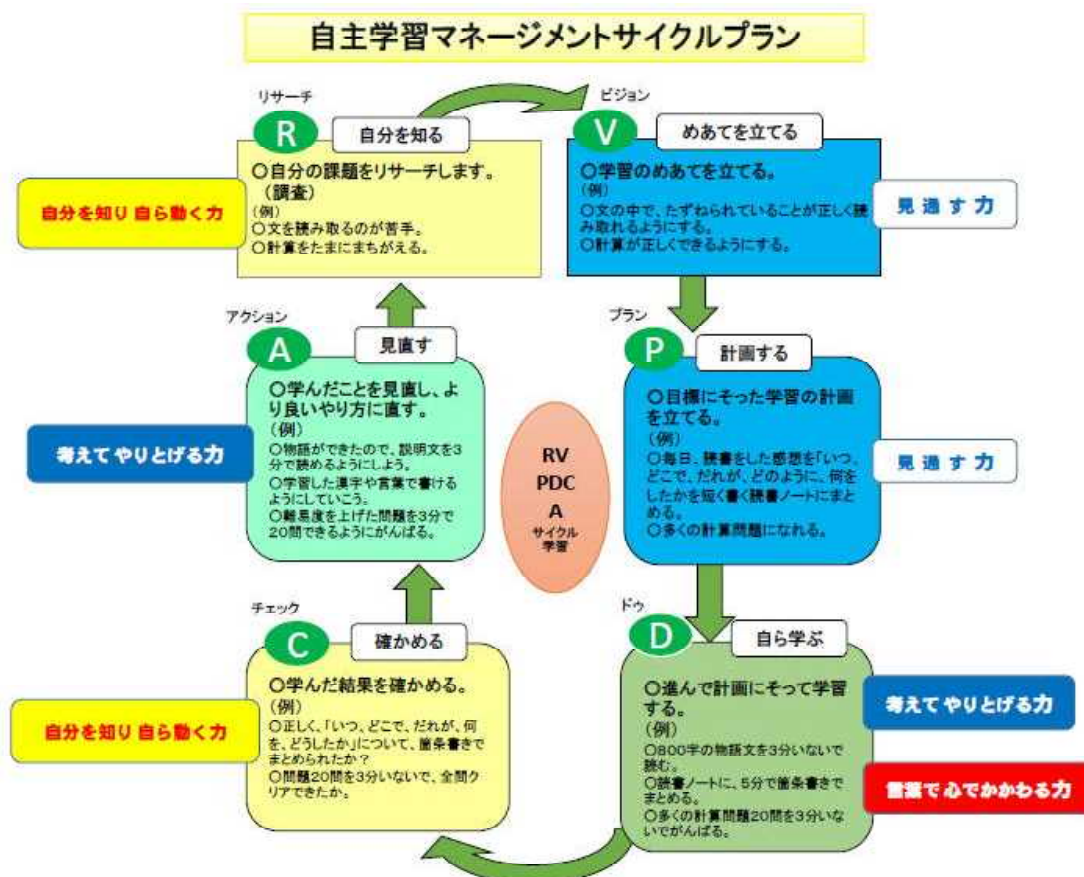
キャリア教育を基盤とした学校経営を行っている。その一環として、各教科の授業と家庭学習をつないだり、家庭生活と学校生活をつないだりするなどしてキャリア教育を展開し、教育活動全体を通して家庭学習の充実に向けた取組を行っている。

1 取組① 授業と家庭学習をつなげています

○ RVPDCAサイクルによるマネジメント学習法

キャリア教育における4つの基礎的・汎用的能力である「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」をそれぞれ、「言葉で心でかかわる力」「自分を知り自ら動く力」「考えてやりとげる力」「見通す力」として自校化し、教育活動全体を通して基礎的・汎用的能力の育成に取り組んでいる。

「家庭学習スタンダード」におけるR-PDCAサイクルのPlanに含まれる「目標を立てる」ことをさらに強調するためにVision（目標設定）を加えたRVPDCAサイクルによるマネジメント学習法として、「自主学習マネジメントサイクルプラン」を示している。学びの主体は生徒であることから、学習の方法をどのように工夫・改善すれば「目指す学力」に到達することができるかについて、「自主学習マネジメントサイクルプラン」を基に、具体的に生徒に考えさせている。



＜「RVPDCAマネジメントサイクルシート」の一例＞

12月20日	水		数学	4	国語	84点	数学はよく解けた。国語は読解が得意。
12月21日	木		英語	4	数学	85点	計算のミスは少ない。国語は読解が得意。
12月22日	金	終業式	自学		英語	80点	単語を覚えた。リスニングは得意。
P(どうやるか)	D(どうやったか)		C(テスト結果からの気づき)		A(次どうやるか)		
① 数学の計算を 減らす	ランニングを使いながら学習した。		国語がよく解けた。リスニングも得意。ミスは少ない。		95点以上になるように、国語の やみ、数学のミスを減らす。		
② 国語、英語を 重点的に学習	ランニングを使いながら学習した。		国語に力を入れた。		ランニングには毎日1時間 問題を行う。		
③ 記述式で3科目 に。理科、社会	まあ、ランニングで読み進めた。 時間を減らす。		数学の5割の計算や書き、 自習もよくわからない。		ランニングでテスト以外の日に ような問題をやってみる。 問題を減らす。		
30回PDCAのサイクルを回す。社会が終わって合計点を出したところで、また次のサイクルに向けて考える。振り返りの繰り返し。							

「自主学習マネジメントサイクルプラン」を具現化するために「学力向上のためのRVPDCAマネジメントサイクルシート」を作成し、活用している。シートは、いくつかのバリエーションがあり、さらに生徒の実態に応じて教師がカスタマイズしている。生徒はシートを「家庭学習スタンダード」に貼り付け、活用している。

生徒が「目指す学力」に到達するための改善策を考える過程で、教師は、課題対応能力の向上を意識しながら支援することを大切にしている。計画立案は、教師からのアドバイスを受けることや友人と情報交換することで、人間関係形成・社会形成能力を高める活動となっている。また、シートに記入することで、自己理解・自己管理能力を高め、継続性や習慣化につながるということを粘り強く指導している。記入したシートや使用したノートを活用し、自らを振り返らせることで課題対応能力を高め、キャリアプランニング能力の向上につながるなど、学年主任を中心に学年全体で指導している。



2 取組② 協力・連携体制を築いています

○ 学校と家庭との連携

「学力向上マネジメントサイクルプラン」(学力向上グランドデザイン)の中に、学校と家庭の役割について位置付けている。学校においては、学習習慣を身に付けたり、学習意欲を高めたりするための働きかけについて、教師間で共通理解を図り、学校全体で実践している。家庭においては、保護者が取り組めることについて、年間を通して保護者会や学年便り等で周知し、家庭教育力の向上に努めている。また、校長座談会を開催するなど、キャリア教育について保護者と共通理解が図られてきており、家庭教育やPTA活動にも基礎的・汎用的能力を意識した取組が

たくさんみられるようになっている。

＜「学力向上マネジメントサイクルプラン」の一部＞

家庭教育の中で保護者が取り組めること	
1	規律正しい生活をさせる。(自己統制力=最後までやり抜く) ○起床・登校・食事・入浴・就寝を予定通りきちんとさせる。
2	子どもの心と健康状態を把握して学習時間を確保する。 ○悩み・疲れ・体調不良・病気などを把握する。
3	子どもの将来の夢や目標について話し合う。
4	宿題やテストについて確認する時間を確保する。
5	ゲームの時間を「読書の時間」に少しでも替える工夫をする。
6	勉強をする場所を決める。(できるだけ目の届く場所で!)